

営業成績を上げるために偶然生まれた心書。 相手の心に届ける書は彼女の人生でかけが えのない存在となる。壮絶な過去の出来事か ら、他人も自分も信じられなかった彼女は、あ る夫婦との出会いがきっかけで生まれて初め て人生に希望の光を見出す。自分が自分らし くあり続け、'喋ること'と'心書'をツールとし て、少しでも自分らしく生きられる人が多くな るように日本や海外でメッセージを発信する

インタビュアー:大沢 陽子





岸本 亜泉 さん

どんな人も受け入れる、そうすることで自分が 成長できる

講演であっても、日常であっても、私 ネルギーのいることですが、それによ の中の意識は常に私とあなたです。 120%その人のことを全力で愛そうと する。藤田ご夫妻が言ってくださった ように、その人が何をしていたとして もこの先何をしようとも私はなんでも 受け止める覚悟で出会っています。自 分もそうしてもらって救われたので、 自分もしていきたいと思っています。

自分と違う価値観や許せないことを している人を見ると驚きますが、それ を受け止めるってどういうことだろう と考えるんです。自分自身が持ってい た固定観念や思い込みを崩して、向き 合ってみて、あぁそういうことだったの か! と思ったき、自分の器も広がりま す。違いを受け止めるということはエ

心書というツール

って私が成長させてもらっているんで 誰もが見放したような人にも寄り添

いたいです。ひとりでも寄り添う人が いたらこの人の人生が変わるだろうな と思うからです。「初めてそんな言葉を 言ってもらえた」とか「初めて人に受け 止めてもらえた」と言ったときの顔を 見るのが私の喜びでもあるんです。で きる限りそれをしていきたいですし、 それができる人を増やしていきたい。 「こういう生き方は最高だ」と伝えて、 それに賛同してもらって「自分もそん なふうになりたいな」と自分を磨いた り、自分と向き合ったりする人がもっ ともっと増えたら嬉しいですね。

*

この学校を運営する形にするまでが

とても大変でした。去って行った人も

いましたし、逆に応援してくれる仲間

人と向かい合い、人を受け止められ のを見ると本当に嬉しいです。 るのは、私には心書というツールがあ るからだと思います。心書は決まりや 正解のない自由な世界です。こうでな ければならないということは一切な く、書いた作品に上手下手の基準がな いからジャッジもできません。できたも のはオールOK。自分を思いきり出せる 場所で、受け止めてくれる場所なんで す。私は心書とともに人生を歩んでき たので、空気みたいな存在で、私の人生 の中にあって当たり前のもの。心書に 生かされています。

心書をはじめた11年前、最初は仕事 にするつもりはありませんでした。たま たま沖縄の離島に引っ越して子どもを 産んだときに、このまま人生終わるの は嫌だな、専業主婦も嫌だなと思い、子 どもの面倒を見ながらできることで、 インターネットを使って、もしかしたら 売れるんじゃないかなと思ってはじめ てみました。

書くことが好きで、それまで友達の 誕生日に書いて喜んでくれていたの で、みなさんに喜んでもらえるかもし れないと思って書いていったら、次か ら次へと依頼が来ました。さらに「教え てほしい」と要望があり、教えたとこ ろ、今度は「教え方を教えてほしい」と 言われるようになりました。ニーズに 応えているうちに、今の活動につなが ってきました。

昨年7月にK2アカデミーというイン ターネット上の学校を伊勢隆一郎さん というパートナーと一緒に立ちあげて その運営と講師をしています。これは 学校では教えてくれなかった、人生で 大切なことが学べる学校です。コミュ ニケーションの取り方、夢の叶え方、お 金の稼ぎ方などに触れていくことが、 これからの時代絶対に必要になってく るということで作った"愛と経済的自 由の両方が同時に手に入る"学校です。 学校の中にいくつもの専門コースがあ って、その中で心書の講師を担当して います。心書を書ける人、稼げる人、教 える人を生み出しています。生徒さん の人生がどんどんよく

なっているのを見ると 泣けます。書も書いたこ とがない、仕事もしたこ とがない主婦の方がこ の7ヶ月でコンスタント に稼ぐようになったりし て、喜んでいらっしゃる

もたくさん集まってくれました。そうい う人たちに支えられ、救われ、ようやく 開校した学校です。自分の人生をかけ てやっているので、生徒さんの声を聞 いたときはやっていてよかったなと思 います。実はオンライン上の学校なの で海外在住の方も沢山いらっしゃるん です。私にとって心書は、あるがままに 生きるということを伝えていくための ツールなんですよね。だから国内だけ でなく海外でも心書を伝えてくれる仲 間が増えることは、とても嬉しいこと なのです。気分が良いときだけ書くの ではなく、落ち込んだときにも書きま すよ。「不安」「怖い」「逃げたい」などそ のままストレートに書きます。それも公 開していますよ。みんなそれがダメと 思っていますが、いいんです。人間です から感情をそのまま感じてよいです し、喜怒哀楽はあるんです。ポジティブ だけで生きていかなくてはいけないな んてその方が苦しくて難しいと思いま す。喜怒哀楽の醍醐味を味わいながら、 まだまだ自分の中に眠っている可能性 を引き出していろいろなことにチャレ ンジしていきたいですね。

ステージパフォーマーとしての活動 では、大きい筆を持って太鼓やダンサ ーとコラボレーションをしたりしてき ましたが、ハワイではフラとのコラボレ ーションもやっていきたいです。フラを 踊っている人が書き出すなんて、いい ですよね。ハワイからオファーもワクワ クしながら待っています!

これからもK2アカデミー、ステージ 活動を通じて国内外でひとりでも多く の方にあるがままに生きる楽しさや人 の可能性は無限大ということを伝えて 体感していただきたいです。あなたとこ こで出逢えたことに心より感謝を申し 上げます。そしてリアルでお会いできる 日を楽しみにしています。マハロ♪





▲\2014年3月 涙涙のK2アカデミー1期生卒業式 300名を超える卒業生を輩出

営業成績No.1になるために心書が生まれた

していました。売り上げが一番になる と高額の賞金がもらえるトップ賞とい うものがあり、お金が必要だったこと もあって、それを目指していました。で も私の周りには呉服の知識を積んだ大 先輩ばかり。私は営業経験も呉服の知 識もありませんでした。この人たちと 呉服の知識では絶対に勝てないので 「私はハートで勝負だ」と、お客さまと ハートでつながろうと思ったんです。

そこで、名刺交換をしたら必ずお礼状 を出すことにしました。アナログ人間な のでボールペンで書いていました。その ときはお礼状を出せば「若い女の子がが んばっているねぇ。協力してあげよう」 と連絡が来ると思って出し続けていた のですが、なんの連絡もありませんでし た。考えてみれば1日100通も200通も はがきが届く社長さんたちですから、私 のはがきは埋もれているかもしれない、 ただ出すだけじゃダメだ、ちゃんと手に とってもらわなくちゃ、目立つようにし ないと!と思ったんです。ちょうど隣の 営業の机の上に筆ペンがあったので、そ れを使って「目立つ」をテーマに書いた

のが、私にとって初めての書でした。 ところが、出し続けても何もレスポ ンスがなかったんです。目立つはずで したし、なぜ連絡が来ないんだろうと 思いました。そのときに、手に取っても らっているけれどもしかしたら相手の

20歳のころ、呉服屋さんの営業職を 心に届いていないのではないか。とい うことは、目立って、手に取ってもらっ て、さらに相手の心にメッセージが伝 わるスタイルで書かなくては意味がな いと感じたんです。

相手を想うってどうやるんだろう? というところからはじまって、ひとりの 人を思い、イメージして、伝えたい想い をのせてお礼状を書くようにしまし た。すると、ものすごい思い入れが出て きて、毎回お礼状を書くたびに感謝の 気持ちがあふれてきたんです。そうし て生まれたのが、心書でした。相手の心 に届くスタイルで書を書くというもの です。書道を習ったこともないけれど、 自分らしい文字を書けました。そこが はじまりです。

その後、半年で売上ナンバーワンに なりました。お客さまからどんどん連絡 が来るんです。お客さまが仕事で落ち 込んだときに、ふと机にあった私が書 いた書に目がいったそうです。そこには その方の存在そのものを全肯定するよ うな内容が書いてあるわけです。「その メッセージに救われた」と言ってくださ って「僕にできることはある?」とか「あ なたは何をしている子なの?」などと連 絡をくださるんです。筆一本で、着物の 知識は何も勉強することなく、着物の 着方も営業の仕方もわからないのに、 売り上げを伸ばしてキープできたとい う経験をさせてもらいました。

相手の心へ届けるとは 深くその人のことを考えること

にはたったひとりの人をイメージする んです。その人を、何会社の代表取締役 の山田太郎さんではなく、社名も肩書 きも外してひとりの山田太郎という人 間として見るんですよね。この人はこ ういうことを頑張っているけれど、も しかしたら本当はこういうことを悩ん でいるのかな、こういう言葉をかけて ほしいのかなどと考えてみる。例えば 経営者の方なら、いつも強くいなくち ゃいけないと思っているかもしれない けれど頼れる場所はあるのかなとか。 この人はいつも赤い服ばかり着ている けれどなぜかなとか。その人について ひたすら考えるんです。

その人が何かをしたからよかったと いうよりも、その人の存在があることで 私はこんなふうに思えましたというこ とを言葉にして伝えるだけなんです。出

相手の心に届けるためには、具体的 会っていただいてありがとうございま すという気持ちで「出会いに感謝」と書 いたあとに、「山田さんが後ろで片付け をしてくださっていましたよね。そのお 姿を見たときに、私も細かく気配りをで きるようになりたいと思えることがで きました。先日、私もそういうことをし てみたらとても気分がよかったんです。 ありがとうございました」。その人は私 にそう感じてもらおうと思って動いて いるわけではないことに対して、そのお かげで自分がこうなれたから「ありがと う」と思いながら書いていました。

> それを書くということは名刺交換を している瞬間からその人のいいところ はなんだろうとずっと考えているとい うことです。こういうことを繰り返して いたら心に届く書を書けるようになっ ていきました。私、いいところ探しの達 人ですよ!

> > *



*

*

*



▲作品より「雨」

◀2013年2月にシドニーで飲食店の壁 画プロデュースとして書いた海外での

岸本亜泉(きしもと あい)

心書アーティスト・K2innovation代表取締役 1982年京都出身、東京在住。呉服屋営業時代 にお礼状を書き始めたことがきっかけで筆ペン と出会い心に届くスタイルで自由に自分を表現 できる『心書』を生み出す。2008年夢と感動を 生出す筆文字「岸本商店」を開業。時には優しく 時にはダイナミックに感情豊かに表現される書 体が人気となり全国各地から注文殺到。作品は - 点一点息吹を吹き込むように『生き続けるも の創り』を大事としている。2011年世界NO.1 コーチ、アンソニーロビンズ直伝セミナーから帰 国後は実体験元にどのような状況下でも楽しん で生きる、よりよい人生を創る方法を全国各地 でお伝えしている。また思い込みを外す・自由に 自分を表現する『きっかけ』として、心書をツール に全国各地でワークショプ・セミナーを開催。子 供から大人まで人の持つ無限の可能性をお伝

えしている。 2013年7月愛と 経済的自由の両 立を実現するた めの、全く新しい スタイルのビジネ ススクール『K2ア カデミー』を設 立。現在600名 近い生徒へオン ラインにより講座 を展開。ビジネス

*



ケーションスキルや、その他、心書をはじめとす る27種類の専門コースを提供している。また国 内にとどまらず、定期的に海外での壁画プロデュ 一スやステージ活動なども行なっている。

Facebook https://www.facebook.com/okaaaaann?composeropen=1

藤田夫妻との出会い 初めて人生に希望の光が見えた

今は講演やセミナーなどをしています が、かつての私は全然話なんてできませ んでした。家庭環境に恵まれていなかっ たり、ひどい事件に巻き込まれたりして、 人間不信になって、自分も信じられず、自 分が嫌いで、今すぐ自分は死んじゃえば いいのにとずっと思っていました。

でも、あるご夫妻との出会いをきっ かけに人生が変わりました。沖縄の渡 嘉敷島にダイビングの勉強で行って、 ダイビングショップの宿で働いていた ときに、たまたまご家族でいらっしゃっ たのが藤田ご夫妻でした。ご主人が体 を治す先生で、私を見たときに「もうす ぐ倒れる」とわかったそうなんです。

ご主人が「なにかあったら言ってお いでね」とひと言残されて帰って行か れたのですが、実際にまもなくして、倒 れて、身体が動かなくなったんです。ま ったく働けない状態なので、そのダイビ ングショップには出て行くように言わ れました。帰る家もお金も、頼る人もい なくて、どうしようと思ったとき、藤田 さんを思い出し、夜中にダイビングシ ョップの宿帳を調べて藤田さんの電話 番号をそこから拾って電話をしました。 「今、動けなくなってしまいました。助け て欲しいんです」と生まれて初めて助 けを求めました。彼らは「いいよ」と言っ てくださいました。お金がないことを伝 えると「これもご縁だからいいよ、治療 してあげるよ」と。「家もないんです」と 言うとさすがに驚かれましたが、ちょっ と時間を置いて、すぐに「とりあえずお いで」と言ってくださったんです。

それで大阪に行きました。藤田ご夫 妻は、私の住む家と日用品をそろえて くださっていました。その後、食事から 何から本当に面倒を見ていただいて、 治療も無料でしてくださって、しばら くしてからは藤田ご夫妻の自宅に住ま わせてくださったんです。

そんなときに言われた彼らの言葉が 私を変えてくれました。「亜泉ちゃんが 今までどんな人生を生きてきたとして も、どんな過去があったとしても、私た ちは全部受け入れるよ」。「亜泉ちゃんが これから先、どういう人生を歩んでいっ たとしても、どういう人になったとして も、何をしたとしても、私たちは亜泉ち ゃんのことをずっと愛し続けるからね」 と言ってくれて、初めて愛というものを 感じました。私は両親からはそういう形 で愛情というものを感じられなかった ので、生まれて初めて「私、愛されてい る」と溢れてくるものがありました。そ のとき、とても小さいけれど希望の光が 人生に見えたんです。もしかしたら私、 まだいけるかもしれない。もうちょっと 自分の力を見てみたいと思えて、そこか らいろいろチャレンジしてみようとか、 自分に向き合ってみようと思うように

なりました。25歳のときでした。 藤田ご夫妻には申し訳ない気持ちで いっぱいで「なぜなんの価値もない私に こんなことをしてくれるんですか?」と 言ったら「そうじゃないよ。君はすごい 人間になるからもっと自分を信じて」と 言ってくださいました。「私は何をお返 ししたらいいんですか?お金もないし 何もできない」と伝えると「もし僕たち に何か返したいと思ってくれているの なら、亜泉ちゃんが亜泉ちゃんらしく輝 いて、周りの人たちに光を照らしてあげ なさい。それが僕たちへの恩返しだよ」 と言われました。彼らとの出会いが今こ こにつながる大きなきっかけでした。



▲沖縄の渡嘉敷島で藤田さんと。

最後にたどりついたのが

あるがままに生きたいという気持ち した。まずはたくさん付箋を買ってきて、 自分は何がしたいのか、今心の中にどう いう気持ちがあるのか、なぜこれがした いのか、これをして何ができるのかなど、 1つのテーマに対して30個くらいずつ自 分の気持ちを書いて、部屋中に貼って、ま た書いて、ということを繰り返しました。 最後に究極に出てきたのが「私はあ

るがままに生きたい」ということでし

それから自分と向き合うようになりまた。当時息子が2歳で、この子みたいに 泣きたいときに泣いて、笑いたいときに 笑って、怒りたいときに怒って、また2 秒したら笑っている。笑うことに理由は いらないですし、拗ねていてもすぐに楽 しいことを見つけたら機嫌が直ってい る。こういう姿っていいな。私も昔はこ ういうふうにシンプルに生きていたん だなと思いました。それ以来「あるがま まに生きたい」が人生のテーマです。

*

震災がきっかけで、生かされた意味を考えた

震災がきっかけでした。そのときには 自分は幸せと思って生きていました。 自分で書いた書をインターネットで販 売して、稼ぎもあり、これでいいと思っ ていました。

震災があったときに「私、なんで生か されているんだろう」と深く考えた時 期があり、自分だけが幸せで、それで OKと思っていたけれど、そうではなく て、今自分がここまでなれたのはたく さん支えてもらったから。次は昔の自 分のように、苦しみもがいている人が いて、自分の経験や体験を話したりす ることで何かきっかけになれるならや らくては、と思いました。

「こういう人生だったけれど、こう やって這い上がったよ」ともっと外の 誰かに伝えなければいけない、それを 伝えるために私は生かされたんだと気 づいたんです。過去の壮絶な体験はど れも自分にとって辛すぎる出来事で、 なぜ自分ばかりこんな不幸な思いをし

講演やセミナーをしたのは東日本大 なければならないんだろう、人生最悪 だと思っていました。それを乗り越え られたときに、私は選ばれてこの人生 を歩んでいて、最高の人生だったと思 えました。

> 最初は私と同じ経験をした人たちに 向けて発信したかったんです。人生お 先真っ暗と思っている子たちがまわり にいっぱいいたので「そうじゃないよ、 まだまだこれからだから」と伝えなく ちゃと思って。「どんな辛い出来事が あったとしても、過去は変えられない けれど、捉え方はいくらでも変えられ る」ということを伝えるために講演を はじめました。でも伝えているうちに、 大きな出来事に巻き込まれたわけでは なく、順風満帆に育ったけれど苦しん でいる人たちがいることを知って、 もっと多くの '自分を取り戻したい、自 分らしく生きたい' という人に向けて メッセージを発信しはじめました。今、 ようやく藤田ご夫妻に恩返しをしはじ

めたところです。